



西展紀新



林道春著

ル 3
3672



門ル3
號3672
卷



辰辰紀行

長茂野

黒川真願藏書

黒川真願

道春

黒川真道藏書

福田文庫

辰辰

名よおふむさ 野を月乃入物さ水とけり
海とにうくさるの茶茶漬すそて又茶茶あり此國
乃縮毛葛西越谷岩坑の越鴻巢思ふより皆せり
野の内よりて休ぬはまこと法獵場ふれく毎手養
あり勢給ふ
國野同名稱武藏尋常旅客宿春糧兩餘草色連天地
郊外雲烟没邑莊富士雪遙花稍小筑波陰茂藪猶長
殘星點々夜叢火微月纖々照射光共往島荒多幾許
齊飛鳧鷹百千行豫遊兼習驅馳範養放皆知鷹鷲方

辰辰紀行

雲夢青丘俱芥蒂。塵鳥有本荒唐。班鳩入網風前霞。
白鵠罹黏泥上霜。暴虎何曾逢太叔。非熊庶幾載師望。
藪蔬任見宜應採。耕穡於時亦不妨。仁愛只今單物處。
豈論五柞與長楊。幸逢四海為家日。處處風烟似故鄉。
春風よまよむわいのる若草乃のちや塵よ海のむこ此

涉草

夢に寺ありとよこ此觀音海よんとて人の多うこ
糸信もてりきれん大古る月今よりさそわれ余と
うりきれいあも人のうをうに男女乃群集するあ
京の清ありあもればくんとてきねむり此にり
牛鬼乃ゆてはけりまうるはけりあ島あふ

ゆく馬より大なる此現ふ何とて牛の出きれりと
たかり此夢れ知言流志於人ありきれん老り
まらりてやそかたり也

法威能救衆生憂小白華山彼岸舟若把馬即令渡水
應同海底有泥牛

神田

此社も平親まゝ屍體何うけりしあふ其新法
まはれりかか利とてゆる

昔聞鉄額是虫尤何事將門廻逆謀草木山川無守土
一堆埋骨幾春秋

愛宕

長尾元行

いほし乃時ふく東あ新愛若は遠は國あはるこ城
に勅遣しそれら後國うはるをいうつ。又武
菟園よりいけてゆりし是は後軍地菟乃はか
くふとそとに武士の崇敬する故に始はまのうあ
かありありしは後國はるひあまき今も大慶
なりぬ

京洛移遷坐武州筑壇構閣陟山丘誰知幣帛神封物
却作沙門活命謀

増上寺

髣髴給孤園飛麋倒大門遠公名已久善導法猶存悲
願雖扶女哀鳴屢擊猿始知蓮社内更有國師尊余入寺時

應前
有後

隅田川

都鳥さ南田の乃物なれん好々人とりて家も宛
てゆりゆりなれん海もひらりと河とありは鴨
の太さきねこれ鳥蛤を好くそとく今もねあり
漾々溶々一葉身河邊秋景只懷春自從在五詠歌後
流水飛禽愁殺人

金沢

金澤乃絶景の東州の佳境とて好む人の丹書に
とほかりて。扇島ふりし市杵嶋を橋立小も
かてのたふへさるるもて水あり。小條氏天下

西長巳行

鎌倉よりいふとて海ありて形こゝ人ありきゆりては
頼朝乃墓とてその名へはれと鴨乃長明の墓と本
とをいひまゝ秋乃霜きててせいの所よりいひて
満自鎌倉城郭亡雲烟漠々樹蒼々道遙昔聽遊龜谷
報賽今無詣鶴岡草復匣中三尺水苔深墓上五更霜
君公不識包菜計千載英雄淚濕裳

江鴻

友沢より馬よ海より海濱ちりてと所より海文乃
舟伝かり江鴻よ波りて人伝はれし海北岸
乃下に大なる家室ありけし舟伝よ志くゆく

へかといふ所ありてやみねせり龍神乃
擣りて水とて人いひ傳ふと乃舟の舟女世
かづれあまのりり
借問嶋中人不知此孰神蛇と遺跡在君其問水濱
江嶋從來神女居風鬟霧鬢駕雲興遊人若有登仙意
水宿應傳柳毅書
神世より今むしはりてと海の八重乃増路よと傳やん
此所より曾我十郎と妻虎と回跡ありとて二乃石伝
人と海はらみくもくげとてかゝりて
むりより虎石と名流き今にあり

一、新志是あり。世とくあり。お湯あり。石ら。新瀑の
 一。一。走湯乃名之。温湯よりしての故。や。又一里斗
 西に温泉あり。これ西に熱湯と名はく。このより
 乃痛あり。あ。湯すれ。一。強あり。此。余も人。さ
 られて湯。へ。休。其。湯。に。汗。多。朝。乃。進。楽
 して。岩。此。間。ら。烟。む。一。あ。ら。て。人。の。道。は。く。へ
 と。と。あ。わ。む。か。と。あ。は。ま。の。熱。湯。も。さ。あ。く。湯。ま。に。こ
 へ。を。流。し。け。ひ。て。あ。く。は。い。と。と。槽。は。湛。て。人。く。よ。入
 せ。ま。り

絶境靈蹤且古今。尋名吾輩亦登臨。走湯權現救人鬼
 便是驪山神女心

三嶋

伊豆乃三嶋。伊豫乃國。一。伊豫乃國。一。わ。う。は。り。て。大山。祇。神
 と。い。ひ。ま。は。ら。ふ。う。う。や。相。國。乃。御。前。は。て。三。嶋。と。富士
 と。の。父。子。此。神。あり。と。世。久。一。を。い。傳。と。わ。と。ゆ。は。あ
 づ。い。れ。く。と。て。一。富。古。乃。大。神。と。い。ふ。本。花。岡。耶。那。と。ま
 月。は。日。中。紀。乃。落。少。と。か。あ。い。や。へ。さ。り。竹。取。物
 流。と。や。ん。い。い。は。た。か。く。や。坂。を。後。の。代。乃。う。ら。て。や。ゆ
 り。ん。凡。之。鴻。と。い。つ。る。縁。別。接。別。と。乃。國。と。三。不。一。あ。く
 とい。れ。り。ゆ。と。り。神。名。帳。小。あり。と。ま。く。ゆ。は
 祭。儀。如。在。幾。千。年。青。幣。相。連。引。白。線。天下。神明。垂。跡。處
 流行。似。得。地。中。泉

まやうまれとさうまふいんけんを懶惰乃たそれ
あはれし聊や法いふゆるかの不與浮雲齊といふ
はくはくはくや巖空大始雪とあはれは雪もや衆山之類
魁多れとてゆき世山よれかつてのるひや天下は
すくくまのあすらんをあはれへまにや蓮花の早く
煙洞ハ薄といふはさび山一對してるるにや
一山高出衆峯巔炎裡雪氷雲上烟大古若同仁者樂
蓬萊何必覓神仙

富士川

我國は名はけりて大河とあることありしに富士川
土川と海道第一乃急流なり舟に乘て渡はよわ

まらららら河出て半をく樽酒打つるに
客たるらんはものをもあつてもはるくありしに
乃人をもくは魂乃消る公地なりまを

往來停馬此蹴躡天下涌々豈獨吾河畔為通名利路
涪陵慙愧一樵夫

薩埵山

尊氏直義中河くまわてばあはて合戦ありしに
を校りひひく

弟兄争國亂如麻萬馬奔馳薩埵涯一樹東西枝指後
海山風雨棗棠花

奥津

奥津

多し。三保を護河國有度於河邊にあり
縹約氷肌神女容聞名自古問遺蹤漁人洗耳是何曲
仙袂飄々風入松

久能山

此乃山の状如く河上流岸孤絶乃所とて觀音若人坐
坐の地多れ補陀洛山とて中々わ一里ありわ東に
寺あり之能寺と名づく聖一國師葉科の産りて
こ乃寺に堯舟法師と師と。台教を弟子にり。入宋の
後達磨宗を止はてて東福寺乃第一祖と。世の人於
も久能乃赤長老とて稱しま。宋の初に渡りて
獨儒の稽顙をばいさへてり。又源祿別とて唐墨と

いつれ横濱に河寄進をれり。法也も他奥の映るにせ
けり。あ人寺僧乃書をきけり。勅進帳乃ありけ
り。又久能乃河にわくがまじわりも。其外推ち
天皇乃時草創せり。河と。大やう。其れ
くか。な。と。久。す。ま。の。ま。は。ね

遠尋幽寺到斜陽過客居僧談兩忘身是此山清淨色
何求無垢在南方

久能宮

寂然長隱久能宮。明德惟馨神國風。億兆小臣望不及
帝鄉路遠白雲中。

何圖忽轡國中春。哀慕憑誰寫御容。臣妾叩頭將伏拜

雲車高駕鼎湖龍

駿河文庫白雲中

餘烈遠遺賢聖風能令術業有專攻誰言馬上治天下
只聽爐前讀雪中寒水月明千歲意日星道行六經功
請君更勿問他事人是儒門五尺童

狐崎

源頼家乃提原平三景時を誅せんときこれをもれん正
治二年正月抵原相模國一宮河逃去之獲ゆ玉清之國
まへに河杉原の場しりかたりを頼甲乙人引あひく
あやしとひひ矢河射しけ進まれん提原狐崎
下也合せ蘆原小次郎飯田五郎吉香小次郎とあひ

我て景茂をこれね國內乃兵とも何つまらる妻もれん
景國景宗景則景連と死ぬ景時景季景高をこれ
汝乃山をこれけ山中し其首河うし出て
道路を馳し頼家提原を毎にありとて武傍乃
進撃ありし延尉乃る河者にあしとせしるる
河もこのし事あり

源君兄弟本連枝何事一朝恩愛衰猶有讒人遺哉在
不投材虎死狐崎

浅間

和歌志豆機山しりかたを是ありとすう
帝乃对富士本宮河表に這つて新文とりりか

山中回首費吟呻遺愛萬楓秋又春
會古冥々名與境
葉平譚後更無人

大井川

大堰河ハ後ハ遠江ト云境ヲ明日香川
ト云雨少キニ後津カケル事ト云
峯江流キテ鳩田乃釋河系の中ニ
ありて金谷の山小そふ事ト云り
大堰ハ木沙石流キテ川ト云り
乃枝流ト云りて一里ハ向小
わつふる事ト云り
乃人ハ一ノ徳紅輿梁ト云
る人馬川の形流キテ金谷
に流キテ鳩田に

と云ふ所とわりおる事
幸極しむといふ者
いふ所もわり鳩田乃民との
うたふといふ流系れも
旅客の囊は成しうかる
いふ所洪多きをいふ所
賣炭翁の草衣けりて年
の暮れを待とうといふ所
河津は流るる一田をよる
と云ふ所は防鴨河使防葛野
河使と云ふ所は
のりとも唯今おるい出
らんや
尋常揚厲必過腰
叱馬呼奴魂欲銷
來往就中何處
無舟無筏復無橋

小夜中山

唯位法師ののちありあり
佐和の中山と云

後で乃るるり
坂道外降是早天。夢殘馬上不成眠。此山無限西行事
能使詠歌千古傳。

西坂

西坂城新坂と書し此所乃民より餅をうけ
還乃の餅は救少ふより新坂のより餅と
て其名あはれあるわ。或は葛乃粉とまりて餅
一。是乃粉小坂城かてある。旅人よす世に此
餅をわとまりて其葛餅といふは志越
茨津を賣て老芋と得る人あり者なりや
婆叫蕉号婦喚烘。傳人鄙食在途中。憑誰救得西山餅。

馬首吹來餅餌風

中泉

見付濱松乃間中泉といふ所多。息馬乃多き所
いて。越獵にけり。き地をぬく。大将國とす。た放
鷹せう勢給ひてあり。う糸を傳世小竹わしに
芒礪雲一去。鴈鷺鳥空相呼とけり。打獵人しと思
ふ。やハ駿遠二列。よき中將敵乃しを給。一國
るれし封建乃し。と今にあつと。つんかを
春葱冬符跡猶遺。霜露凄々野草衰。鴈鷺自來還。自來
更無人放。決雲見。

美濃の池田

羨濃乃青墓遠江の池田。護河の手越。いしきと長者並
君ありて。しうき性。送れまき。將落乃女。子駿馬。門
に。し。る。た。千。金。よ。り。し。を。買。と。し。り。ま。れ。は。は。は。は。の。情
よ。も。い。り。て。た。ら。ゆ。ん。人。矢。鳥。大。臣。乃。め。ま。れ。湯。谷。も
は。池。田。れ。宿。の。し。す。あ。い。て。い。ん。へ。か。る。世。に。い。く。る。一
今。い。は。高。天。彦。乃。河。の。東。北。に。飛。り。あ。り。て。わ
は。る。れ。小。民。も。わ。り。て。守。り。て。居。り。き。也。大。臣
於。小。天。彦。と。て。二。乃。河。あり。ま。れ。新。田。在。中。將。乃。昔
氏。と。我。願。て。乃。が。れ。ま。は。時。子。播。の。柳。は。り。け
ふ。は。花。越。ら。れ。ま。れ。と。ま。の。し。る。り。江。都。乃。將。接。の。馬
ま。は。や。濱。相。あり。て。れ。家。細。邊。は。小。天。彦。の。り。る。り。

とろりあめれ

池田驛長本倡家。鬼子嬋媿。天下誇腰似楚王宮裏柳。
面如巫女。廟前花。古今不盡。洪河水。淵瀬相接。兩岸沙。
治乱興亡。非我事。征鞍暫憩。且嘗茶。

今切

遠列荒井乃濱。乃真の山五里。乃乃海。と。り。て。大
舟。と。出。入。る。し。う。き。山。に。は。き。く。後。陸。地。の。り。り。り
中。比。山。乃。り。り。れ。具。た。ひ。い。り。り。く。ぬ。け。出。て。海。へ。入
る。其。地。お。く。の。し。く。海。も。り。り。て。今。物。の。名。は。は。は。は。
り。古。老。い。し。は。い。ふ。たり。家。國。の。信。特。諾。伊。特。無。り。り。
と。給。ひ。大。己。貴。女。彦。名。の。は。は。は。れ。け。り。と。へ。ん。其。こ。し。は

西原新行

いづれゆきし。とらうら華山を巨灵が壁開けて水
をやのりきりし。とらうらや
一葉扁舟寄旅身。潮波通信遠別濱。海山何借巨灵手。
我國元來造化神。

潮見坂

白浪賀より西るる人のが。一乃坂あり大洋眼前に
あれし。潮見坂と名づく。余嘗詩試作りて云
波浪雲天俱一色。東南溟海更無山。聖門有術人何敢。
潮見坂頭停馬看。律小かろす。快活乃やうるれも。
山看乃韻。世俗の思とら通韻をひらきつへ。
や多く切韻ハ勢も此ハ余かろす。とらん三百篇楚

人乃詞よハ惚韻のこたがかり。げんう聖人の刪修屈
宋の文法もつら。て沉約江老乃ハや。もて試字
びとも。世間流布の韻鏡。も惚通乃音ハ専と
。洪武正韻。洪武韻府。もむうにかつり。申此の韻
をあら。あたらす。も後う。あらん人の。て。我
に。かろ。ん。は。あれ。初字ハ律偶。も
者ハ。先。や。み。後。う。と。わ。ゆ。ら。れ
も。不。律。も。あ。ん。て。先。律。法。も。へ。絶
句。試。も。わ。ん。八。句。法。も。へ。意。も。へ。
風。さ。か。ろ。れ。古。に。あ。る。句。も。情。深。う。さ
絶。ハ。律。も。あ。る。是。詩。も。乃。捷。法。なり。と。か。人の

かろりき。海とにせけふもたりにて耳し
しきまらむとけ
天地豈識幾層瀾舒卷古人方寸端。滿目不遮潮見坂
大鵬飛盡水漫々

参河國

志不見坂より二河乃ありに終るに溝あり。是るん
遠江三河乃境ありといふはけりや菅野の真道。史を
見ゆりしに。持統天皇。三河國より行幸ありと志れせ
れ。いふは。三河乃郡。いつまの村。里といふ。り。一し。は
真道を光仁桓武乃時多れ。世久あして志る。り。や
る。略して書り。せ。れ。や。は。借

先王若ニ要ニ慰ニ民生ヲ定テ有テ壺コ漿シ簞シ食シ迎テ遺レ恨ヲ翠ニ華ニ巡リ跡ヲ
未聞行在ナク頰宮名

吉田

江戸より来りて乃向よ大橋回ある。武苑の六卿。三河
乃吉田矣。矯近江。乃勢多あり。い。り。と。矢。矯。の。と。大。橋。を。い
く。流。水。に。り。り。て。縮。み。る。衣。あり。此。は。新。小。板。り。と
る。り。き。は。小。や。ま。い。り。と。誰。う。周。も。り。う。三。寒。紙。や。めて
留。候。り。一。編。紙。傳。り。し。や
行。々。何。日。窮。相。送。數。列。風。馬。過。曉。霜。上。龍。橫。道。路。中。川。
流。無。晝。夜。人。物。有。西。東。一。枕。還。鄉。夢。家。書。久。不。通

長澤

宮簀媛ニヤスヒメの家に宿し海へまはりて社乃神といひ
 ける。然るに世俗乃祝に熱田成蓬萊といふは揚
 基妃と祭といふ。されば宋大史より東乃曲と國を揚
 妃の初ありといふ。是社のこゝに巫覡乃託宣世間
 此傳説ハたりとやうにわがはらるる記ありと
 東征功就凱旋時宿所曾徵宮簀姫誰道馬鬼坡下鬼
 一朝來此立冥祠

桑名

熱田より海路七里渡りて伊勢國桑名小いし
 びり清見原天皇吉野より潛幸ありし時皇后も伴
 りて海にいで天皇は此所より美濃國不破園に到りて

新ひ白皇太后を此地に海に流す。天皇大伴乃玉子
 と位成ありしは不破乃園に於て東西の兵お戦ひに
 天皇利成給をせし海に流して位は伊勢給す。天武天皇
 是より白皇太后を天智天皇に娘大伴玉子と連枝し
 て海に流す。女玉にして後に持統天皇と成りて
 桑名に於ては松宮今といはれし所の所なり。此の
 人といふも此の所なり。又聖武天皇時藤原原廣
 繼西園にて野をなすといふとゆふもこれに官軍に
 引退給し終つ。天皇の信實大伴玉子と桑名海に
 て神と稱給ひしは桑名に渡りて美濃
 にありし近江路にありて還幸なりとありし間も度

西行紀行

二十二

繼伏誥のより捷書成弛て奉り高教日本紀後日本
 紀成身傳りしるは新定に志るし事終
 曾聞二帝此傳直憾在吾邦未見書今問先蹤人不識
 誰賡風土補方輿

石薬師

四日市場より三里つら西に茶師乃石像あり所と
 石茶師と名づく余くふる焉たりと傳う浮圖紙
 かよひ五福紙まじりみ退凡下乗とてして仏菩薩を
 石にて造るの所くはかほまれと碑銘墓誌石表
 ありて一とあり流傳乃二寺院より源空沙門の行狀
 ありとて菩提乃用よとあり終りありて竹方減り

今乃人の祖少く同小僧高の名録といとてくは寺の
 進のなるはよりありまじりたり諸別誌形をあり
 きりたりしに寺院仏圖をりる小民村まいも河
 まじりたりとて庠序学費とては名録といとて
 傳てむしりる礎もなり延天乃比まては都より
 大学成建て國郡より國学成まて二件乃釋奠
 ありてはよはしる時ふかすはけりるや是初の
 学校より近はまて誰にてと得業の人居たりしに
 は四五十年より僧法師の位承りやうにせりわね
 浮圖五福乃ありは石成まじりるんよりは蟠首龜
 踏成遠より蕃神點胡乃為小堂より遠よりしよ

乃江越め新に廉涉前の物波とやらむはたはつ
る。い所よりありし鬼谷前田丸討つてくくもつふ
是も又たかつた解。むくくく山賊あり所といひ
けくぬまのそれは鬼とくくくや。停務と云ふと於廉
此山賊ありき終くあし

九折盤紆鈴鹿坡行人征馬恐蹉跎抵今四海恩風遍

八十瀬河無白波

五山

五山といへとも山をさす。鈴鹿より西乃坂下まで二
里つらにあり。釋詁毛傳をよむに石山茂去乃山といふ
五山といふの山といふもむす。けれむひく

行李東西久旅居風光日夜憶鄉間梅花擊馬土山上
知是崔嵬知是岫

水口

去歲八月四日大相國二條乃御所を出陣ありて翌日
け所より着せ給ふ其日より打續き雨ありきけし日
遠ぬまよりくく多し。夜又おきて法前小余と信
り一時學而乃篇をよみあし。停まれし蹉跎ひくはえ
るりしに能竭其力能致其身とあり所をよむといふ
評讀ありて能といふ字にをけはくをく解りあり
さりにてきて忠孝をめらむ。親よの力けつてく。君
はを文けいといふといはくはけくはくといふ評

論わねるなりと仰まふよ余もかろ趙苞の故の代
引て昔もかりし其をわねれりてすはるは徳と
志げりたり

愛生從子親義立目君臣侍讀古年兩淚痕今日人

草津

石部より草津よりなり馬よりさく奴隷
乃るなり近江玉の甲より相撲乃若たかく色
て石邊草津坐合相撲候と伝ふ石邊かた時あり
草津の村時とわりといふ候はてそののたると人
のよりかき安麻の蹴速野見宿祢より初て郡
都羅善雄力びく人侯野河津にいれりて其名定

侍系年中行事にて相撲の節會とて内裏にて行
くせはるなりやうく物よりなりけり勢田よあり
ぬお権乃詩代化もとい人のいひはれ

氣似鳥免出野堀力如鼈背戴方壺竜紋絶蹟今猶古
聞否少年相撲徒

勢田

勢田を古戰場あり兼久乃後よ八皇輿の敗績にて
外に象麿ありしりやありと考證乃御寓より内
相り奔りんとすれは橋路と高鴻とて亡りたり
よはふ是のえあふ日本記をよめれば天智帝崩御
ありしとすれ対大東を沙門とすせはひて右野

山に入勢あり。大友皇子乃時を大政大臣にしてあ
し。天智乃讓つて依りけり。大友を野にわ
に出く和列停矣。せはる。濃列不破。國より尾列の兵
を正る。あはぬ。皇子乃兵と我勝て。近江乃來。因きて
の。つと。あはぬ。皇子乃兵と我勝て。近江乃來。因きて
合戦あり。大友乃兵。小の。皇子乃兵。小の。皇子乃兵。小の。
河中にて。伯林維經乃師。氏ふ。大友乃法見。源
天皇是あり。壬申乃乱。い。時乃事。氏ふ。大友乃法見。源
風。勝。年中に編集せり。其中に大友皇子
天智帝乃長子なり。壬申乃役。小。命。遠。て
薨。ぬ。つり。舍人親直。皇考王父。あ。い。文。氏。

婉て南董の巻。は。か。の。人。懐。風。藻。八。親。王。乃
時。と。事。遠。つ。つ。其。の。事。氏。隠。え。あ。く
に。や。近。江。大。明。子。増。五。達。文。氏。流。て。白。帽子
を。戴。多。れ。と。異。域。同。日。乃。物。語。あ。る。る。
勝。敗。興。亡。憂。更。憂。十。年。人。事。落。慕。擿。責。散。為。帶。血。為。水。
都。入。勢。多。橋。下。流。

比叡山

湖水乃道。く。比叡山。流。身。て。入。は。る。わ。人。の。和。韻。と。
納。り。詩。と。ま。い。る。て。云。興。公。昔。作。四。明。遊。能。使。遺。一
文。後。世。留。松。洞。窟。深。地。蟻。動。竹。生。嶋。泛。浮。萍。幽。三。朝。烟。
草。君。王。殿。一。夜。風。波。内。相。與。只。有。舊。時。今。不。改。山。雲。朝。

西長尾行

平陽府志

卷之六

七

元明二年十一月

縣志



山莊公進鎮東鎮正感德朕廷水高柳林重矣

大率與治公來一降無事里委小開

大率

大率與治公來一降無事里委小開

大率

大率與治公來一降無事里委小開

大率與治公來一降無事里委小開

